

無人島探検やものづくり、とても楽しかったです。新しい友達もできました。また参加したいです！



手作りブーメランを試し投げ。ちゃんと戻ってくるかな？



夜は光のオブジェを製作。



2日目の昼食は自分たちで。



ウニやアワビもたくさんいたよ！



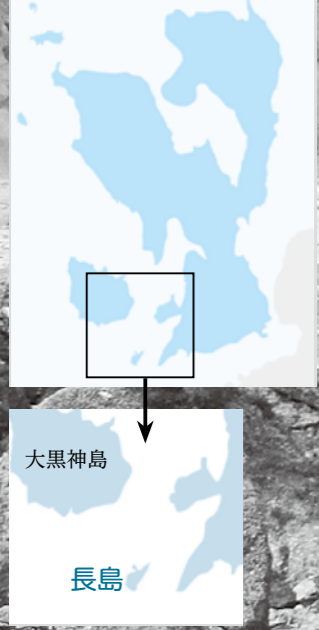
いろんな生き物があるね！



タコ捕ったど～！



まずは自己紹介やゲームでコミュニケーション。



2

自然・科学体験教室 1泊2日の小さな冒険

長島では、岩を裏返したり潮だまりをのぞきこんだりして、海の生き物をバケツへ入れていきました。

8月10日(火)・11日(水)に行われた夏休み自然・科学体験教室。この教室は自然環境を愛し、「ふるさと」を大切にする気持ちを育むこと、交流を通じてお互いに学びあい、友情を深めることを目的に毎年開催しています。今年は市内小学校5・6年生やジュニアリーダーズクラブ員など、約30人が参加しました。

1日目
オリエンテーションや自己紹介などの後、目玉プログラムの長島探検へ。深江漁港から船で約20分、無人島の長島へ向かいました。上陸後は約2時間半かけて島の周囲1・8kmを探検し、カニやヤドカリ、ウニ、アワビ、タコ、岩ガキなどを採取しました。どんどん出てくる海の生き物に、「こんなの採れたよ」「これはなんていう生き物？」という声があちこちで聞こえてきました。

2日目
今回のテーマは「昔の遊びを科学する」。やじろべえやポンポン船、ブーメランなどを製作しました。どうしたらつりあいとれるか・自分の投げたブーメランがきちんと戻ってくるには…。頭を悩ませながら、そこに潜む科学の原理に触れました。

閉会式を迎えた時には少し疲れた表情も見せましたが、子どもたちは大満足の様子。「もう1泊したかった」「また来年参加したい」などの感想があり、充実した1泊2日を過ごして家路につきました。

……ふるさとの自然を知る子どもは、ふるさとを語る大人になる。……



さとうみ科学館 西原直久 館長

ウミホタルの青い光は、暗い所で見ると蛍光色でも鮮やかです。広島湾内では観察が難しいと言われる生物ですから、機会があれば観察してみてください。潮が満ちてくる時が捕まえやすいと思います。自然・科学体験教室では、長島探検を楽しみにしている子どもが多いようです。毎年違うテーマを立てて、続けて参加しても飽きない工夫をしようと心がけています。こういった観察会や教室などを行っているのは、私たちが住んでいるふるさとのことをより深く知って欲しいから。生活・文化とのかかわりが深く、子どもたちの興味・関心をひく生き物たちがたくさんいる海辺は、「ふるさと」を知ってもらうことができます。一番のフィールドだと考えています。将来、子どもたちが大人になって「自分のふるさとにはこんなきれいな海がある。こんな生き物がある」と歴史や文化とともに、「自然」についても語れる大人になって欲しいと願っています。